

2022年4月24日日曜日

説教題：復活の朝、エマオの途上

聖書カ所：ルカによる福音書24章13節～35節

聖書を朗読して下さい。

園のお墓に向かった女性たちです。そこにはイエスさまのご遺体はなく、遺体に蒔かれていた物だけが残されていました。つまり、以前の身体でよみがえったと考えられます。ですがその後の話を読みますと、その肉体は壁を通り抜ける。目の前で消える。離れた場所に時間を越えて現れるのです。その他に色々ありますが省略します。これらのことを含めて「栄光のからだ」とクリスチャンは言います。

女性たちは、この奇跡を弟子たちに伝え回ります。その話を聞いたお弟子さんの話です。エルサレムからエマオへと向かう途中です。それも復活された日の出来事です。

1. イエスさまとは気付かれない。弟子の2人はイエスさまに着いていったのだが、死ぬという最悪な結果となった。その事に関する議論であったようだ。そこにイエスさまが訪ねられるのだが、〔（聖書）目はさえぎられていて〕全く気がついていない。
2. エルサレムでは誰もが知る大きなニュースであった。
3. イエスさまは預言者。弟子たちはイエスをそのように見ていた。旧約聖書に登場する預言者は国をも動かす。また敵国にも大きな力を発揮する。それを望んでいたが的外れる。〔（聖書）イスラエルを解放するお方〕
4. 女性たちの報告を受けたこと、行って見たものの遺体がなかったと報告をうけた。
5. イエスさまは、弟子たちが気付かないことに苦言をのべる。
6. 27節は、私たちが聖書を朗読するにあたり大切なメッセージを残された。
7. 愛餐の場で、弟子はイエスさまだと理解する。〔（聖書）間が開かれ〕、これも聖霊様による働きです。つまり思い起こされたと捉えます。
8. 32節は大切なみことばです。つまり彼らの記憶が呼び覚まされ、力強いことばに希望を抱いた。これらは聖霊さまが内側に働いた。〔（聖書）私たちの心は内で燃えていた〕
9. かれらは、自分たちが描く方向で物事を考えていた。ですが、それは見事に外れ、その先を見失ってしまった。それどころか自分たちの将来を悲観して議論するまでに至っていた。イエスさまには果たすべき義務があった。それが神さまの御心であった。弟子たちは、イエスさまの御心に共に立つことを理解していなかった。だからイエスさまのことばが理解出来なかった。聖霊様はその事に気付くようにと働かれるのです。

祈りつつ、聖書を朗読しましょう。